



いのちの森通信



発行/ 財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 ☎ 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ <http://inochinomori.or.jp> Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

財団法人
いのちの森
文化財団
Vol. 2
2007. JAN.
平成19年1月31日発行
編集 山下 薫

共に支え合って生きよう 「コミュニティ」

2006年9月「いのちの森文化財団」が設立、公益法人としての社会教育事業をスタートさせて頂きまし。この財団の理念である「ユニバーサルユニティ」という意識の共有とは、生きとし生けるもの全てが仲間であり共に支え合って生きようコミュニティ社会を創造することであり、財団はその先頭に立って実践に向けて実践活動を展開することを使命としています。

その実現は教育に負うところが極めて大きいとの認識から、財団の事業内容を教育文化事業として法人を設立させて頂いたものであります。その教育の目的はまさしく生から死まで、共に学び合い、生き合い、生活し合うという「いのちの営み」を根底においたコミュニティ空間の創造を通して実現されていくものであると確信しております。

いのちの森文化財団

現代社会における諸問題の根底を見てまいりますと、起こり来る問題が個々のものとして存在しているのではなく、繋がりがあつて全体としての関連の中で発生していることが見えて参ります。いわば他分野との深い連携をもって取り組むという視点の欠如に、その問題の解決を遅らせてきた要因があるのではないかと指摘されてくるようになりました。

医療の世界を見ましても、病を臓器や器官の疾病と捉え、いのち全体の問題として捉えるということが薄れて来ているように思います。人間性・心の喪失が陰を落としている昨今の医療現場、産業経済界を見るにつけ、医療や産業経済界の中にも「いのちの営み」を中心に据えた医療教育・社員教育の実践が急務であると申せます。

何のために勉強するのか？

また学校教育を見ますと小学校から大学に至るまで、いのち・生きる・死・実感・体感という視点が弱

生から死まで共に生き合う コミュニティ空間の創造

「いのちの大学構想」 実現に向けての提言 塩澤 みどり (いのちの森文化財団理事長)



いことが上げられます。受験や試験のための勉強・知識伝達という色合いが強く、何の為に勉強するのか？という人生から見た学習の意義を問うということは殆どありません。その結果、何の為に勉強するのか分からないという青少年が増え続けています。利己的な目的の追求のために科学技術を利用するところでもないことになってしまっています。学習・科学の目的は、まさしく私たち人類も含めた生きとし生けるものの進歩発展と幸福のためではないのでしょうか？

また、私たちが生きるということを見つめた時、「死」という問題が重要になってきます。人は誰でも必ず、「死」を迎えます。この「死」を見つめた時に、自分の「生」がより鮮明に、尊いものとして感じられてきます。

青少年育成センターの展開

いのちの森文化財団では、このような理念のもとに「いのちの森青少年育成センター」、「ホスピス・ターミナルケア（緩和ケア）」の建設と事業の展開を次の段階としてめざしています。経済、医療、生活、自然、環境、生産全ての中に「ユニバーサルユニティ」を根底に据えた教育の実践がなされていくことを願っています。

建設を目指している「いのちの森青少年育成センター」では、水輪の会で過去14年の間に受け入れてきた「ワーキングスタディー」過去の参加者は約250名）をとおして青少年の育成、自立支援、社会復帰支援業を行ってまいります。

ワーキングスタディーは、日々の仕事を通して、そこに内包している様々な学びを体感していくことであり、近代における「労働から

の疎外」を人間本来のものとして捉え返し、労働を自らのものとしていく教育でもあります。

5町歩の広大な農地での無農薬、自然農法による大地とのふれあひは、人間の心を真から癒し、いのちの素晴らしさを体感出来る教育実践の場として大いに期待されています。

また、日々のミーティングは、本音で語り合う真からの対話を生み出し、心の和みは文化力を生み出します。様々な心身のセラピー、カウンセリングなどはバランスのとれた人間教育のサポートラインとして大きな役割を果たしています。本年はいよいよ、このセンター建設の第一歩を踏み出す計画であります。どうかご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、南グリーンオアシスを始め本財団を支援頂いている、企業、団体の皆様にもご支援をお願いしております。実現に向けて計画を練り上げて参りたいと考えております。

老後の生活空間の創造

一方人間の生から死までの人生を考えますと、生き生きとした人生の終末を願わない人はおりません。生老病死の人生を明るく楽しく生き抜く生活の場作りも一方の課題です。過去30回以上開催してきました「帯津良一先生 合宿養生塾」・21世紀の医療従事者を育成する「いのちの森」の経験と、信州飯綱高原の大自然の環境、隣接する約5町分の農地を活用した園芸療法などを取り入れ、「生」・「死」を見つめなおす、よりよく死んでいける意識のあり方、ホスピスのケアをも内包した老後の生活空間の創造は財団の究極的な存在意義とも言えます。生涯学習社会教育こそ教育・文化の目指す最後の実践活動です。

これから大きな二つの事業の実現の為に、本年は理事会、評議員会において「特別事業費」として「基金を募ることを」提案させて頂きたいと思っております。

どうか、本財団に心を寄せて下さいます皆様のご支援ご協力を切に願っております。

思いやりの心を教えるため

「どんなに医学が進歩しても、人間が生まれ続ける限り人口の約2%の確率で知的発達障がいのある子供が生まれてくる。なぜならその子供たちは、周囲の人間に優しさや思いやりの心を教えるために神様が与えて下さったブレゼントだから」

15年前に聞いたある牧師さんの言葉は、私の人生を大きく変えるきっかけとなりました。それまで私は障害のある人を気の毒で運の悪い不幸な人と思い、同情していましたが、しかしこの牧師さんの言葉は、私がいかに「健常者」として傲慢になり、自分の価値基準である人は不幸、この人は幸せと決めつけていたかを気付かせてくれたのです。

スペシャルオリンピックスという、知的発達障害のある人にスポーツをする機会を提供する成果を発表する場として競技会を開催する国際組織を日本に立ち上げて15年。2005年に世界大会を長野で開催するまで、認知度の低いこの活動を日本国内に広めることは至難のことでした。どんなに辛くても私がここまでやってこられたのは、知的発達障害のある人たちが私に頑張る勇気を与え続けてくれたからです。

【特集】いのちが光輝く時代を目指して あらゆるいのちが尊ばれ 生かされますように



細川 佳代子
(スペシャルオリンピックス日本会長)

スピード・効率よりも大切なもの

日本は高度経済成長期以来ずっと競争主義に走り、ナンパワーンになることが重視されてきました。物やお金、名誉や地位を手に入れることが幸せだと錯覚し、経済や効率第一という偏った価値観がはびこってしまいました。その価値基準からいけば、一番価値のない人たちが「障害者」となり、彼らは社会の片隅に追いやられてきました。そういう傲慢な価値観で覆われた社会は、思いやりや優しさ、感謝の心を欠いた自分中心

子供たちは本来すごい能力や可能性を持って生まれてきます。しかし、その能力を発揮したり、自分を表現したりすることが不自由なのです。それが彼らの「障害」です。でも、もし家族や周りの人、そして社会全体が彼らの不自由さ、生きにくさという障がい理解を解きサポートしてあげれば、彼らは自分の能力を存分に発揮して、社会での役割を果たし、みんなと一緒に幸せに生きていくことができるはずです。

スペシャルオリンピックスの競技会では、オリンピックやパラリンピックと違って全員が表彰台に立つことができます。もちろん順位はつきますが、相対的な勝ち負けよりも一人ひとりが自分の目標に勇気を持って挑戦し、途中で諦めずにベストを尽くしたということが讃えられます。だからみんなが勝利者です。世界のナンパワーンになることは素晴らしい。でも、オナリーワンのあなたちはもっと素晴らしい。スペシャルオリンピックスの競技会が感動の涙と笑顔で溢れるのは、みんながオナリーワンの頑張りを讃え合い、励まし合い、喜びを分かち合うからです。一人の命の輝きが周囲の命をも輝かせてくれるのです。

人間で溢れてしまい、殺伐とした社会になって当然です。これをくい止めるには、社会の中で一番取り残されてきた障害のある人たちが幸せになる社会にする以外、方法はないと思うのです。そのためには私たちの偏った価値観を変えなければならぬ。スピードや効率よりも大切なもの、すなわち人間本来の優しさを取り戻さなくてはならない。人口の2%の割合で生まれてくる知的発達障害のある人たちの存在の意味が、ここではつきりするのです。

「障害者」という言葉そのものがなくなる社会。いつか「障害者」という言葉そのものがなくなる社会を目指すと同時に、あらゆるいのちが尊ばれ生かされる営みを国中に広げていくことができるように、いのちの森文化財団と共にこれからも活動の輪を広げていきたいと思います。

(ほそかわかよこ)
1942年生まれ、神奈川県出身、上智大学英文科卒。民間企業から派遣され欧州各国に駐在。71年細川護国と結婚、夫・元細川総理大臣の政治活動を支える。一方で様々なボランティア活動に参加。94年スペシャルオリンピックス日本設立、理事長に就任。05年スペシャルオリンピックス冬季大会会長、「世界の子供にワクチンを」日本委員会代表、「a b i e」の会代表、「世界の子どもにワクチン」日本委員会代表。財団法人いのちの森文化財団理事。

【特集】全4回シリーズ



一人一人のいのちが光輝く調和の時代を目指して…



自然環境汚染、工場からの産業廃棄物、保存料・着色料・農薬などの食物汚染からくる食生活の乱れなど。科学的進歩の恩恵に浴しつつも、効率化社会、技術情報化社会が生み出している光と影。今、時代に求められるのは、心やいのちに目を向けたぬくもりもある人間が主人公となる道筋の開拓…。教育、医療、福祉、産業、環境の各立場から各界の先生方に各4回シリーズでお話し頂きます。

激減する森林

一万年前、地球には六二億ヘクタールの森林があった。これは陸地の面積の四割に相当する。しかし現在、森林面積は三八億ヘクタールにまで減少し、しかも最近の一〇年間だけで一億ヘクタールも伐採されている。この速度で伐採されていくと想定すれば、約四〇〇年後には地球から森林が完全に消滅していることになる。信州の豊かな森林を眼前にすると想像できないが、世界各地で進行している現実である。

現在、世界では一〇分間に一種の生物が消滅していると推定されている。年間に換算すると五万種類以上になる。地球上に棲息する生物の種類は正確には不明であるが、数千万種といわれるから、このままの速度で進行すれば、千年程度で地球から生命は消滅する。実際、日本でも過去百年で二ホンオオカミやニホンカワウソは絶滅し、現在ではメダカでさえも養殖されたものが放流されて細々と生存している。

すでに定員超過となっている地球

月尾嘉男 (東京大学名誉教授)



る由縁である。

二〇四〇年北極の水原が消滅

このような危機も色褪せてしまふのが地球の大気温度が急速に上昇することである。昨年、NASAが二〇四〇年夏には北極の見渡すかぎりの氷原が消滅すると発表し、世界を驚愕させた。北極圏域の気温が過去百年で五度も上昇した結果である。地球全体では過去百年で大気温度は平均〇・五度上昇したが、今後百年では最悪の場合六度も上昇するという予測がある。そうなれば東京はニューデリーと同等の気温になる。

すでに兆候は発生しており、南国の鳥類や昆虫が東京の上空を飛翔し、東京湾内には南洋の貝類が繁殖している。やがて熱帯性伝染病が流行することも十分予想される。これらは日本にとって深刻な問題であるが、より深刻な事態に直面している国家がある。

気温上昇によつて海水が膨張し、海面は一メートル近く上昇すると推定されるが、そうなれば平均の標高が数メートルしかない珊瑚礁上の国家モルジブやツバルは海面以下になる。



世界では一億人が毎日の飲用や炊事のための淡水が入手できず、そのために一〇秒ごとに一人が死亡している。しかも五〇年後には、地球の人口の八割に相当する七〇億人が同様の状態になるとさへ予測されている。

二一世紀の戦争の原因は領土でも資源でもなく、淡水の争奪になるといわれている。



月尾嘉男氏監修「地球共生」

前、温度が急速に上昇し

はじめた一五〇年前は〇・〇三秒前という一瞬のことである。

人類は地球容量の限界突破

この異常な状態を端的に明示する説明がある。人間が生活するために必要である。食糧を生産する耕地、魚類を漁獲する水面、資源を採掘する土地、建物を建設する用地、道路や空港など社会基盤を整備する土地、それ以外にも人間が排出する炭酸ガスを酸素に還元する森林も必要である。これらを合計した面積はエコロジカル・フットプリントと命名されている。人間が自然環境に刻印する足跡という意味である。

日本について計算してみると一人が一年生活するのに必要な面積は約四三ヘクタールになる。日本の国土面積は三八万平方キロメートル、領海面積は四三万平方キロメートルであり、これらを人口で割算すると一人あたり〇・六三ヘクタールである。三・六七ヘクタール不足しているが、これは海外の耕地で生産された穀物、海外の油田で採掘された原油などを輸入することで補充されている。そういう意味では脆弱な国家である。

この日本の現状も問題であるが、より深刻な状態は世界全体のエコロジカル・フットプリントである。現状では世界の平均の水準で生活するためには一人一年につき約二・二ヘクタールの空間が必要である。ところが地球の利用可能な面積を六五億人の人口で割算すると約一・八ヘクタールしかない。約〇・四ヘクタール不足である。すでに人類は地球の容量の限界を突破し、定員超過になっているのである。

日本のように海外の面積を利用することはできないのに、人類は何故生存できているかといえは、世界で毎年一三〇〇万人が餓死し、三〇〇万人が淡水不足で病死しているという犠牲によつて穴埋めされているからである。どのような数字によつても、人類は完全に地球の限界に到達している。この難問を解決しないかぎり、人類

教育は子供の人生の不幸を決定する最大の要因

教育は国家盛衰の要であり、企業消沈の因、一家存亡の鍵をにぎる大事業である。それ以上に教育は子供の人生の不幸を決定する最大の要因でもある。

教育と言うと先ず、その専門機関である学校教育が問題にされるが、それよりもっと根本的に重要なのが家庭教育である。しかし今、その家庭教育が無効化し、学校教育が崩壊の危機に瀕していて、最後の砦は企業教育だといわれている。その企業における社内教育も多くの経営者が、目先の利益と長期的な人間性の育成の狭間に立つて苦しんでいるのが現状である。

教育の目的は人間らしい人間をつくること

ここで、教育の再生の為に確認しておかなければならない根本問題は、教育の目的は「人間らしい人間をつくる」という所に在るという事であり、さらには立派な人物を育成する事を目指さなければならぬということである。

ところが今の家庭教育には明確な文書化された指針がなく、教育は場当たり的で親の勝手な振舞が目につく。学校教育は小学校から大学院に到るまで人間教育ではなく理性を成長させるための知育に目的が置かれている。学校は頭

の将来の展望はない。どのような挑戦していくかについて次号から検討していきたい。

つきおよしお…子供時代より長距離走に能力を発揮し、小中学校では駅伝の学校代表選手となる。一九八〇年代になってアルペンスキーからクロスカントリースキーに転向し、毎年二月に一〇〇キロメートルクロスカントリースキー大会に出場。一九九〇年代になってカヤックを開始し、地域の有志とともに環境維持や地域振興を目指す私塾を一八箇所で開催。定年とともに大学教授や政府職員を辞任し、週休４日を目指してテレビジョン放送やラジオ放送に出演しながら生活している。ホームページ「月尾嘉男の洞窟」http://www.tsukio.com 参照

の良い子を尊重する。そして理性的に完璧性を追求するから、学校内での欠点や問題点や事件は明らかにせず、事なかれ主義におちいつている。

企業教育も人間性を重視した実践教育をする企業がが増えてはいるが、実体はマニュアル重視で社員を型にはめ込む教条主義的な教育が多い。結果として社員は堅苦しい窮屈な思いをして従っているだけで、そこから開放される自由を欲求している。しかも企業で尊重されるのは利益を上げ仕事が出来た人間である。企業としては当然であるが、現段階では血の通った温かな心を持った人は育て

そこで本当にこれから真剣に教育の再生と再構築を考えるならば、先ず教える側に立った人達の、人間観の変革と新しい人間観の確立を実現する必要がある。すなわち「人間らしい人間とは何か」という問いに対する答が明確にならないと自信と確信を持って教育は出来ないということである。

人間の本来は「理性」ではなく「心」である。だから先ず心を満たし心を育む教育を土台に置かなければならない。人間は誰でも心が欲しいのである。だから心をあげなければならぬ。人間は誰でも愛されたいし、認めてもらいたいし、解ってもらいたいし、誉めてもらいたいのである。教育に関する者は、その為に「共感同苦の心」「共感同悲の心」という感性を養わなければならない。

教育の崩壊と再生

芳村思風 (感性論哲学創始者)



人は解ってもらえば、認められれば奮い立つのである。

いのちを健全に育てるために

次に人間らしい人間とは、長所も短所も半分づつ持っているという人間観である。だから人間に完全性を求めてはならない。誰にでも何にでも問題点は半分もあるのであって、それが当然なんだから問題も短所も堂々とさらけ出して考えればよい。問題がないことは異常なことであって問題があることが正常であるという認識の下で人にも出来事にも対処しなければならぬ。短所問題点を責めるのではなく、どうすればよいかを考えて助け合って成長することが大切である。そして長所も半分あるんだから良い所をもっともっと伸ばし、良いところを生かして仕事を生きている道を求めて行く事が人間的である。

次に理性能力は人間が生まれてから後に努力して作り出す能力で、人間的な能力として「合理的にしか考えることが出来ない」という限界を持った不完全な能力であることを知る事が大切である。理性は絶対こうだとは言えない、よりよいことしか考えることが出来ない能力として使うことによって、人間は人間らしい生き方が出来ることになるのである。

この三つが教育の再生を考える上で、大人達が持たなければならぬ新しい人間観である。人間という命を健全に育てるためには、宇宙の摂理に支えられた命の働きと、命に込められた母なる宇宙の愛と祈りを受けとめる必要がある。いのちの森文化財団の「いのちの大学」の根本精神はそこにある。

よしむらしかう…米国イオンド大学哲学名誉博士。日本哲学会会員。名城大学講師。いのちの森文化財団理事。昭和十七年、奈良県生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業。学習院大学大学院博士課程を中退し「思風庵哲学研究所」を設立。感性論哲学創始者。「人間観の善正」(致知出版)等多数。



芳村思風氏の著書紹介

【特集】全4回シリーズ

今、私たちは何を見つめ、考えて、行動するのか...

なぜ、こんなにも生きにくく、なぜ、こんなにも未来がない時代になっているのか。一人一人の恐れ、満たされない心、染みついた心のパターンと向き合い、一人一人の内にある真の輝きに気づき、共に新しい生活世界を創りましょう。



医者としての使命に思いを馳せ光り輝く予備校生

S予備校の医学系の学生さんたちに講義をするようになって、今年で、たしか十七年目を迎えます。いつも五月の土曜日の午後です。いつも教室は超満員。隣の教室を含めると四〇〇人以上の学生さんたちが私の講義を聴いてくれます。

皆さん熱心そのもの。どの顔も光り輝いています。だからS予備校での講義は大好きです。いつも年が明けたころから、心待ちにしているのです。

まだ予備校生です。医学部の大学生ではありません。なのになぜこんなに熱心なのでしょう。医師としての使命とか日本の医療の将来に真剣に思いを馳せているのです。

ホメオパシーは一生を賭けるに値しますか？

それは、やはり彼らが天下の浪人だからと理解しました。どこにも属していない強みとでもいうのでしょうか。何事にも真摯に立ち向かうことができるのでしょう。質問も正直で赤裸々で、時々ドキッとさせられます。

「私の父は外科医ですが、父の医療観といえますか、医学に対する取り組み方が、どうしても好きになれないのです。...それでも私は医者にならなければならぬのではないのでしょうか？」

かわいい女子学生さんです。わかります。私も覚えがあります。反抗期と社会主義が入り混じったものでしょう。

「今日の先生の講義で、いちばん印象に残ったのがホメオパシーでした。...ホメオパシーは一生を賭けるに値しますか？」

これまた、ひとときわきれいな女子学生さんです。その面は一途さが漲っています。

「...僕は死ぬのが怖いんです。...死ぬのが怖い人間が医師



殺伐たる現代医療

帯津良一 (帯津三敬病院名誉院長)



「...最近、僕自身を振り返って、本当に医者になつていいのだから、僕のような者が、と思うようになりまして。医師になるものの資質について教えてくださいますか？」

医師になるものの資質を教えてください

「...最近、僕自身を振り返って、本当に医者になつていいのだから、僕のような者が、と思うようになりまして。医師になるものの資質について教えてくださいますか？」

この質問は、実は毎年出るのです。予備校ですから、ほとんどの学生さんは毎年入れ替わります。学生さんにとっては初めての質問なのです。

これから質問にお答えする私は本当に仕合せ者です。答えながら、心がときめいてきます。彼らが来春、医学部に合格して、医者になるのちに思いを馳せて、いつも嬉しくなります。

患者さんは本能的に知っている



いまの医療は、一言でいえば殺伐としています。昔は、もともととぬくもりのようなものが医療の底のところにあったような気がしています。いや、待てよ、ぬくもりを感じていたのは私たち医療者だけだったかもしれません。どちらにしても殺伐としているのです。困ったものです。なぜ、こんなになつてしまったのか。

病氣や障害にはそれなりの意味がある

「いのちの森文化財団」のとりくみは、メンタルヘルス活動における筆者自身の方向性とも重なるだけに、不思議な御縁を感じています。

今回は、最近の具体的エピソードをまじえ、その消息を紹介させていただきます。

以前にも触れたかと思いますが、筆者は長年の精神医療活動を通じて、病氣や障害にはそれなりの意味があり、人間が「生きるということ」と深く関わっていること、及び「危機は再生にむけてのチャンス」であることを、教えられてまいりました。

特に、がんの患者さんたちは、身体だけでなく、心にも生命にも目を向けてください！といつも訴えているのです。それもその筈です。がんのような病氣は、単なる身体だけのものではなく、心にも生命にも深くかかわる病だからです。患者さんは、そのことを本能的に知っているのです。だから訴えるのです。

殺伐ではがんはいつまでも治りにくい病

にもかかわらず、医療者なかなかすぐく医師のほうは、相も変わらず、患者さんを毀れた機械としか見ていません。心や生命には目をくれません。だから殺伐としてくるのです。

殺伐としていたのでは、免疫力も治療力も湧いてきません。だから、いつまでも殺伐では、がんはいつまでも治りにくい病のままです。

だから、S予備校の皆さんにひそかに、そして絶大な期待をしているのです。

おびつりよういち...医学博士。帯津三敬病院名誉院長。日本ホリスティック医学協会会長。日本ホメオパシー医学協会理事長、調和道協会会長。いのちの森文化財団理事。水輪の会特別顧問。東京大学医学部第三外科、都立駒込病院勤務を経て八二年埼玉県川越市に帯津三敬病院を設立。院長となる。医療の東西融合という新機軸を基に、ガン患者などの治療に当たっている。著書『ガンを治す大事典』(二頁書房)他多数。

個人の困難は社会のありようとも無関係でない

と同時に、個人の困難が、家庭や学校、職場、ひいては社会自体の在りようとも無関係でないことにも、気付かされております。

昨今、わが国の自殺率の急増が注目されていますが、その防止法案の成立は、まさに自殺を単に個人レベルとしてではなく、社会現象としてとりくむ必要性を、如実に物語つてまいりました。

メンタルヘルスの本質的な意義とは？

産業界に限っても、行政側の指導もあり、メンタルヘルスに関する組織的な取り組みが現実化しつつあります。その際、マニユアル的な対応を否定するものではなく、本質的な意義を踏まえ望むことこそ根本、と受け止めております。

産業メンタルヘルス活動の現状と方向性

巽信夫 (元信州大学医学部助教授)



いのちの癒し場の必要性

なおこの点につき、最近産業メンタルヘルス領域の代表的研究者の一人であるS氏より、次のようなおたよりを受け取りました。現代産業社会にあつて、疲れ、ゆき詰まった都会の方々が、沖縄の手つかずの大自然との接触(対話)を通じて、おのずと癒されてくるという現象が、底流となりつつある旨の紹介がありました。と同時に、生命(いのち)の根源的なレベルでの癒しの場の必要性を痛感され、筆者との情報交換の機会を求めてくれました。

産業社会の再活性化を促す先駆的モデルの提示

丁度、次世代コミユニティ構想の実現に踏み出された、「いのちの森文化財団」の動向とも重なるだけに、早速「水輪」での対談を提案させていただきます。

そして、十二月初旬、今回のテーマに関心の深い日女史も加わり、極上の自然食をいただきながら、高原のゆつくりした時間の流れに包まれつつ、塩沢夫妻、及びスタッフの方々と貴重な交流の機会にめぐまれる運びとなりました。

とりわけ、人知れぬ困難や挫折体験を通過されてこられた皆さんの体験報告は、なによりも説得力に富むものでした。日常世界から解放され「今、ここで意識」を大切にする共同生



危機の背景にある「対話不在」

さて、この時代的危機的課題の背景に、「対話不在」が在ることを、指摘できるかと思ひます。一方、「真の対話」には、きわめて本来的な癒しの力があることも、日々の臨床実践を通じて、実感させられております。換言すれば、人間は、

活を通じ、次第に気づきを深められ、日々、発見的かつ主体的に歩まれている姿には、われわれ一同、心から感服いたしました。

本財団の理念とその実践活動は、個人の基盤喪失のみならず、現代産業社会自体の再活性化をも促す、まさに先駆的モデルの提示で在ることを実感させられた次第です。

たつみのぶお・医学博士。元、信州大学医学部精神医学教室助教授。現在、信州大学病院メンタルヘルス外来専任医。上海交通大学医学部客員教授。長野県産業保健推進センター基幹相談員。日本・欧州サイコセラピー資格認定。いのちの森文化財団理事。「専攻：精神病理学・精神療法学。著書：心理療法の本質」(日本評論社)他。

財団へのご寄附をお願い申し上げます

「いのちの大学」の一環としての「青少年育成センター」構想にご協力下さい。振込用紙の特定事業費の「いのちの大学」をお選び下さい。【振込口座】①郵便振替 00520-13-42181 名義 財団法人いのちの森文化財団 ②八十二銀行 本店営業部 普通口座 10993531 名義 財団法人いのちの森文化財団

いのちの森文化財団ボランティア募集

いのちの森文化財団ボランティアを募ります。ボランティア登録を希望される方は事務局までお問い合わせ下さい。

財団事務局へお便りを頂戴しました

●いのちの森文化財団事務局の皆様へ 井戸掘勝手連を立ち上げました。14万坪の広大な農地の一角に「井戸」を掘り、「いのちの森文化財団」関連施設3カ所に上下水道を供給する計画をぜひ進めたいと思います。井戸掘勝手連推進ボランティア(K・B) ●スタッフの皆様。毎日、ご苦勞様です。遠くに離れている私としてとりあえず出来ることは、働くか、知恵を絞って収益を上げ、財団の運営費として少しでも寄付させて頂きたいと思ひました。仕事がある間は毎月送金させて頂こうと思ひます。会社での私の身分は不安定ですので、どの位続けられるかわかりませんが、努力して行きたいと思ひます。若いスタッフの皆さんに大変期待しています。(J・S)



巽信夫氏共著「東洋思想と精神療法」

2007年度いのちの森文化財団主催事業 ～一人一人のいのちが光輝くために～

社会教育事業

実践教育講座
講師 芳村思風 先生
2月3日(土)～4日(日)
4月14日(土)～15日(日)
6月9日(土)～10日(日)
10月13日(土)～14日(日)
12月15日(土)～16日(日)

家庭で、会社で、学校で、教育現場の荒廃はもはや限界まで来ています。教育のテクニクでもコミュニケーション論でもなく、生きた人間教育とはなにか？という根源的な問いに答えつつ、教える側の現場でのどんな悩みにも直接お答えします。知識教育という理性からの教育の限界を突き破り、感性にもとづいたところに働きかける教育論を学びます。体感講座も同時に行い、自然との触れあい等を通していのち、自然、自分とのつながりを再認識します。
参加会費 全5回（1泊2日）1年コース 一括150,000円 各回38,000円



いのち学
講師 帯津良一 先生
3月23日(金)～25日(日)
5月11日(金)～13日(日)
6月1日(金)～3日(日)
7月20日(金)～22日(日)
9月7日(金)～9日(日)
11月16日(金)～18日(日)
12月7日(金)～9日(日)

医療現場における物理的な療法や診療にかたよった医療が社会的な問題に発展しつつあります。医療に対する不信感の多くは技術的な問題というよりもむしろ多くの場合、医療従事者に向けられていることが少なくありません。今、医療をここでも含めた統合的な観点でとらえ直し、人生をより豊かに、いのちがいきいきと輝くような方向へと向かうための医療を志す医療従事者のための講座です。講師は40年の実績を持つホリスティック医学協会会長の帯津良一先生です。先生の医療に対する姿勢、場のエネルギー学、気、こころと西洋医学などを講義頂くほかに、帯津良一先生と患者さんとの実際のコミュニケーションの現場を体験する臨床体験もあります。
参加会費 全7回（2泊3日）1年コース 一括245,000円 各回45,000円



養生塾
講師 帯津良一 先生
3月23日(金)～26日(月)
5月11日(金)～14日(月)
7月20日(金)～23日(月)
9月7日(金)～10日(月)
11月16日(金)～19日(月)

何度も参加する人がいるほど人気の高い講座です。免疫力・自然治癒力を高め、病を克服し、明るく希望を持って生きるための実践講座です。手術、サプリメント、代替療法、心の持ち方、不安への対処法、その他どんな悩みにも帯津先生が直接お答えする車座交流Q&Aの時間も設けています。また帯津先生の気功教室や楽しい講演もあり、心温まる講座です。食事は天然素材を活かした無添加薄味の健康自然食。生活における養生を学び、病を抱えつつも前向きに生きることの大切さを共に学びます。
参加会費 各回2泊3日 39,000円 3泊4日 54,000円



メンタルヘルス講座
講師 巽 信夫 先生
4月20日(金)～22日(日)
6月1日(金)～3日(日)
8月24日(金)～26日(日)
10月19日(金)～21日(日)
11月30日(金)～12月2日(日)
2008年
2月15日(金)～17日(日)

うつ病、パニック障害、解離性障害、自殺率の急増、物文明の急速な発達にともない人の心が急速に崩壊しつつあります。西洋心理療法をベースにこころの仕組みを学び、崩壊しつつある心環境を癒し、生きるエネルギーを高めていきます。本講座はこころの仕組みを学ぶ講義と大自然の中であふれるいのちを体感する体感講座の2部構成プログラムです。講師は元、信州大学医学部精神医学教室助教授。現在信州大学病院メンタルヘルス外来専任医の巽信夫先生です。
参加会費 全6回（2泊3日）1年コース 一括180,000円 各回38,000円



内観セミナー
【随時開催】
日程・参加費は
お問い合わせ下さい。

自身の過去を振り返り、父、母、兄弟姉妹、仕事場の上司などとの人間関係の中で、①お世話になったこと、②して返したこと、③迷惑をかけたことの3点について調べてゆきます。調べてゆくことで自分を客観的にとらえることが出来、今後どう生きてゆけば良いのかというビジョンが見えてきます。現在、心理療法、産業メンタルヘルス、学校教育など幅広い分野で取り入れられ、世界的な関心が高まってきています。



ホメオパシー講座
講師 細谷律子 先生
10月19日(金)～21日(日)
12月7日(金)～9日(日)
2008年
2月1日(金)～3日(日)
4月4日(金)～6日(日)
6月6日(金)～8日(日)
8月1日(金)～3日(日)

21世紀の医療といわれるホメオパシー。天然成分から抽出されたエネルギーは肉体に加えこころや生命力にまで効果を発揮します。現在、医療の現場でホメオパシーを精力的に活用されている細谷律子先生をお招きし講義をして頂きます。全6回講座。大自然の中であふれるいのちを体感する体感講座の2部構成プログラムです。
参加会費 全6回（2泊3日）1年コース一括180,000円 各回38,000円



文化事業

**スーザンオズボーン
ボイスセミナー**
ビギナークラス
9月15日(土)～17日(月)
アドバンスクラス
9月22日(土)～24日(月)

歌は魂の直接の言語であり、どんな人にもでも備わっていて、どんな場所でも通じ合えるコミュニケーションです。「長野冬季オリンピック・パラリンピック」で世界に熱唱したスーザンのセミナーです。多くの人が癒され、心を開き、声を失った人が歌を取り戻してゆきます。あなたの心の声を解放し、自己の深いレベルでの癒しと気づきをもたらします。
参加会費 各回75,000円（渡航費・通訳料・講師謝礼・宿泊・夕朝食含む）



**ウォンウィンツァン
ワークショップ**
10月6日(土)～8日(月)
ピアノコンサート
10月7日(日)

NHK「こころの時代」「家族の肖像」などの音楽でおなじみのウォンさんのセミナー。ウォンさんが大切にしているのが「いのち」とのつながり。自分とつながり、参加者となつたり、自然の空間の中でつながり、今一瞬の音を奏でる魂のピアノです。演奏中も体を横たえ完全にリラックスして聞くピアノコンサートです。お子さまから大人まで幅広い層の方がご参加されます。
参加会費 38,000円



青少年育成事業

**春山自然観察
&ぶどうの植樹**
3月16日(金)～18日(日)

飯綱の大自然を満喫する観察会。飯綱を散策しながら春の芽吹きを楽しみましょう。温泉、水輪特産無農薬そばのお料理など、自然を楽しめるプログラムでいっぱいです。また、水輪ナチュラルファーム自然農園にぶどうの植樹をする農業体験もできます。
参加会費 25,000円（受講料・夕朝食・宿泊費含む）



**こけ玉グリーンアート
セラピー**
【随時開催・日帰り】
日程・参加費はお問い合わせ下さい。

深緑のこけ玉が人を癒し、人の想像力をかき立ててくれます。こけ玉は私たちのこころの風景を映し出し、元気を与えてくれます。野山を散策し、自分の気に入った植物を集め、じっくりと形を創造してゆきます。出来たこけは手入れをすれば何年でも生き続け、どんどん愛着が増してきます。
参加会費 7,500円（受講料・こけ玉3個の材料費含む）



**リーダーシップワーキング
スタディーセミナー**
【随時開催】
原則1週間以上

生活を通して学ぶ。心の持ち方、人との関わり、志。また中間管理職や教員、人を導く立場の方に必要な資質・能力を身につけます。リーダーシップを発揮するためにしっかりと人格を磨き、人を引きつけ導く力をつけていきます。
参加会費 8,500円～（受講料・夕朝食・宿泊費含む）



社会復帰・自立支援事業

**ワーキングスタディー
ステイ**
【随時開催】
日程・参加費はお問い合わせ下さい。

ライフスタイルを変えたい方、考え方・心の癖を直し、プラス発想したい方、生きる意味を見つけない方、輝いた生き方を求めている方など対象。スタッフとの共同生活・仕事・ミーティング・坐禅等、今を一生懸命生きることを通して学びます。
参加会費 8,500円～（受講料・夕朝食・宿泊費含む）



テレビカウンセリング

財団では、全国の青少年に向け、テレビカウンセリング相談事業（無料）が4月から始まります。若者の皆さん、一人で悩まずぜひ連絡を下さい。くわしい内容は4月にお知らせします。



※参加会費の中には健康養生食、宿泊、夕朝食、講師謝礼が含まれます。

**財団法人「いのちの森文化財団」
理事会並びに評議員会のご報告**
去る平成18年10月30日、ヴェルファ
ーレビルレストラン香花（東京都港区
六本木7-14-22）に於いて、午後6
時より本財団の評議員会、同7時より
理事会が開催され、以下の議案につい
て審議され、全員一致の賛成により原
案通り可決されました。
評議員会への出席は藍原繁樹、江見
いづみ、木下修、藤田政良、山下薫、
久保俊宏、飛田航介、増田美美の各氏、
理事会へのご出席は塩沢みどり、塩沢

研一、鈴木重平、巽信夫、細川佳代子、
三井嬉子、山本勇人、帯津良一の各氏、
監査役の藤沢典広氏、二宮修氏に加え、
特別顧問にご就任頂いた依田賢氏、秘
書の松永裕之氏、財団の設立にご尽力
頂いた美谷島健氏の計21名の方々にご
出席を頂きました。
又、会の終了後は同レストランにお
いて懇親会を開催し、役員、顧問それ
ぞれの方々との親睦をはかりました。
尚会場のご手配は依田賢特別顧問にお
世話になりました。有難うございました。
理事会、評議員会の内容は以下の
通りです。

**財団法人いのちの森文化財団
第1回評議員会**
評議員会開催にあたり、理事長挨拶
後、評議員会の議長に藍原繁樹が推薦
され全員拍手により承認される。議長
より議事録は山下薫に指名、拍手に
より承認される。
**第一号議案「平成18年度の事業計画案
と事業予算案の承認の件**
事前配布資料を元に副理事長の塩沢
研一より説明。平成20年度法改正の際
には公益財団法人を目指すことにも触
れる。3月には修正事業計画、予算案
を提出予定と説明。質疑を受け賛否を

問い、全員賛成により承認。
第二号議案「基本財産の保管について」
事前配布資料に沿い副理事長の塩沢
研一より説明。質疑を受け付け、賛否
を問い、全員賛成により可決。
第三号議案「理事並びに監事承認の件
事前配布資料に沿い副理事長の塩沢
研一より説明。任期は平成19年度3月
31日まで。質疑を受け付け、全員賛成
により承認。
**第四号議案「総括理事選任と特別顧問
の承認について」**
事前配布資料に沿い副理事長の塩沢
研一より説明。鈴木重平氏より特別顧

問候補依田賢氏について補足説明。質
疑を受け賛否を問い、全員賛成により承
認。
議事録署名人 藍原繁樹、木下修、増
田美美、江見いづみ各氏に指名され拍
手により承認される。
財団法人いのちの森文化財団第1回理事会
理事会開催にあたり、理事長挨拶後、
理事長が議長に就く（寄付行為第29条）。
議事録は山下薫に指名、拍手により承
認される。評議員会で議長を務めた藍
原繁樹氏に評議員会の審議報告を受
け、副理事長塩沢研一により、「第二

号議案評議員承認の件について事前配
布資料に沿い説明。質疑を求める。
第一号、第二号、第三号、第四号の議
案に対し一括して賛否を問い、全員賛
成により可決。
議事録署名人
議事録署名人は、塩沢みどり、塩沢研
一、帯津良一、巽信夫の各氏に指名さ
れ拍手により承認される。
●次回評議員会・理事会のお知らせ
評議員会平成19年3月3日15時～
理事会平成19年3月3日16時～
会場 グリーンオアシス（長野市上ヶ屋
2471番地2199）